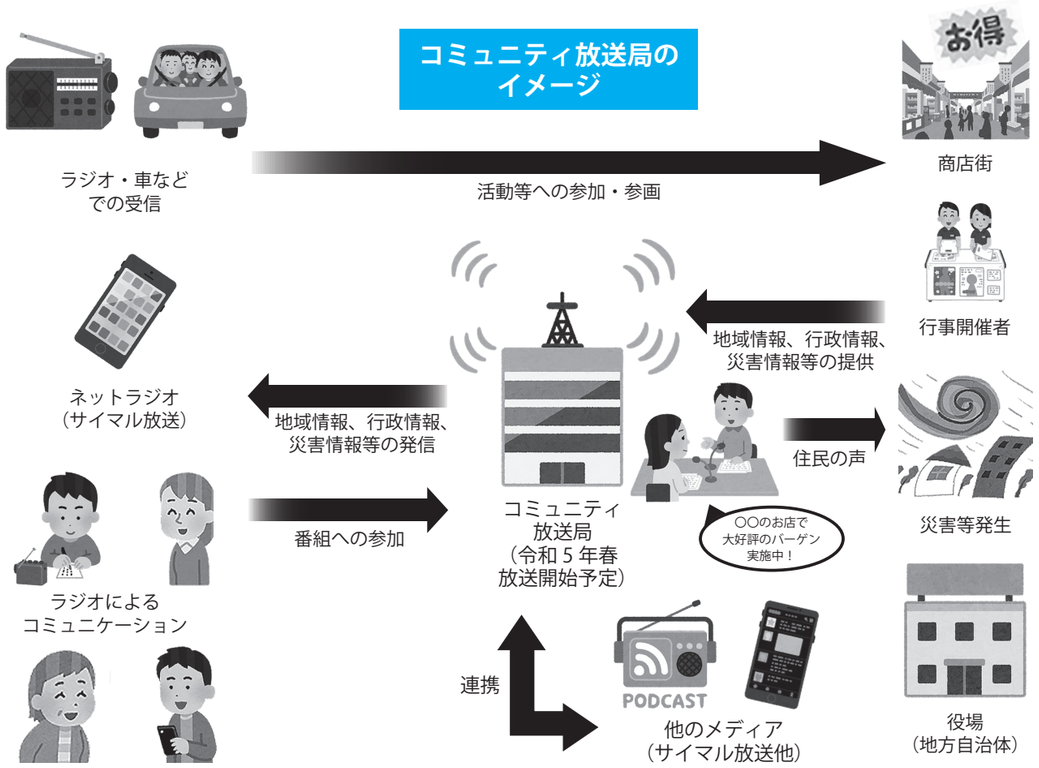

特集 まちのみんなのコミュニティ放送局を目指して

ラジオで広がる新しい世界

地域と密着した情報を提供するコミュニティ放送局。町では現在、放送局の開設に向けた準備を進めています。
今回の特集では、開設に向けたこれまでの経緯や目指す放送局についてお伝えします。

コミュニティを作るメディアとして

コミュニティ放送局（以下「コミュニティＦＭ」）は、地域の特色を生かした番組や地域の方々が参加する番組、行政からの情報、緊急情報など、きめ細かな情報を発信することができます。

マチに放送局ができることにより、誰もが簡単にラジオで情報を得られるようになります。例えば〇〇商店のお得な情報や、□□地区の停電情報など、地域に限定した情報を発信することから、地域と住民をつなぐことができ、マチの一体感がより一層深まることが期待されます。

ラジオには「ながら聴き（何かをしながら聴く）」ができる魅力があります。東日本大震災をはじめとする災害や、新型コロナウイルス流行による巣ごもり化現象などの影響もあって、「ラジオは頼りになる」という認識が高まっており、民放のネットラジオである「radiko(ラジコ)」では、令和２年３月の緊急事態宣言以降にユーザーが急増（日本経済新聞令和２年８月21日朝刊）しています。

コミュニティＦＭのネットラジオ（サイマル放送）でも、どこにいてもスマートフォンやパソコンなどで放送を聴くことが可能であり、ながら聴きは、巣ごもり需要の中での在宅ワークと相性が良く、ラジオはコロナ禍にも負けず成長を見せています。

災害時の命綱としてのコミュニティＦＭ

ラジオには、「即時」に情報が伝えられるという魅力もあります。災害時には町内の情報を素早く優先的に放送することができ、停電や交通事故、漏水や防犯に関わる情報など、緊急性の高い情報を提供することも可能です。

また、平成30年９月に発生した北海道胆振東部地震での被災経験をきっかけに、臨時災害放送にも対応できるコミュニティＦＭの早期導入に対する町民の期待も高まっています。本町においても、即時に確実性のある行政からの情報提供・伝達手段の充実を図ることとしています。

このように、コミュニティＦＭは、コミュニケーションを成立させる「マチを元気にするメディア」であるとともに、「地域限定の防災メディア」としての役割も担っています。

みんなでくりやまにラジオを創ろう！

令和３年10月から、札幌などで24年間、コミュニティＦＭのラジオパーソナリティを務めた深澤雅一さんが、地域おこし協力隊として着任し、令和５年春の栗山駅南交流拠点施設「栗山煉瓦創庫くりふと」での開設を目指して本格的に動き出しています。

同年12月から、栗山町の話題を中心にしながら、コミュニティＦＭの魅力や面白さを伝えるＰＲイベントを行っています。来場された方からは「楽しかったので、また来たい」「ラジオに、ぜひ参加してみたい」といった声も聞かれ、少しずつではありますが、コミュニティＦＭがマチに広がってきています。

地域に密着したコミュニティＦＭとして認知され、地域の皆さんから愛され、必要とされる放送局として存在することが理想であり、町民のためのコミュニティＦＭを目指します。

令和４年１月13日のPRイベントでは、室蘭市でコミュニティ FM「FMぴゅー」を運営している沼田代表とラジオの魅力を語りあった。

コミュニティ放送局
市区町村内の一部の地域において地域に密着した情報を提供するため、平成４年１月に制度化された超短波放送局。総務大臣の免許を受けて運用される民間の放送局で、FM 放送の周波数帯を利用して放送を行うため、一般に市販されている FM ラジオで聴くことができる。令和４年１月現在、国内のコミュニティ FM は 338 局あり、道内においては 28 局となっている。（総務省および日本コミュニティ放送協会のホームページより引用）

サイマル放送
一つの放送局から異なるチャンネル（周波数）や放送方式、放送媒体を使って行う同時並行放送のこと。ラジオ放送では、インターネットに配信するサイマルラジオとして利用されている。

どこにもない
新しいラジオ

言葉でキャッチボール！

「少年時代からの夢の延長線上にラジオがずっとあった」と話す深澤雅一さん。札幌のコミュニティＦＭの開局メンバーとしてマイクを前にして 24 年。本町の地域おこし協力隊「コミュニティ放送局プランナー」となり、PR イベントなどを行いながらラジオの魅力を多くの人に伝えています。精力的に活動する深澤さんに開設する放送局への思いを聞きました。

コミュニティ放送局プランナー
深澤（ふかざわ） 雅一（まさかず）さん（56）

プロフィール

神奈川県藤沢市生まれ。札幌市や小樽市、北広島市のコミュニティ放送局でラジオパーソナリティを 24 年間務める。平成 12 年からは、シンガーソングライターとして活動も始め、3 枚の CD を発売。令和 3 年 10 月から地域おこし協力隊として活動。

これからはラジオの時代

少年時代からの夢が諦めきれず、33歳の時に突然、大手ラジオ局に自ら電話をかけ、「ラジオパーソナリティをやりたいんです！」と行動したことで、私のコミュニティＦＭとの関わりが始まったわけですが、今、栗山町のコミュニティＦＭの開設に関われることがとてもうれしく、ワクワクしています。

放送番組にはメールやハガキ、手紙などたくさんのメッセージが届きます。そして、言葉のキャッチボールが始まりますが、自分の思いと違う伝わり方をしてしまうことが何度もあります。言葉だけで伝える難しさは今も変わりません。だからラジオは面白いのかも。パーソナリティを24年やっていますが、その当時から、ラジオはなくならないし、これからはラジオの時代だと言い続けてきましたが、今は20代～30代の人が聴くようになっていて、関心も高くなっており、これからのラジオは転換期を迎えると思っています。

札幌市から栗山町に移住してきましたが、おいしい食べ物が食べられ、良い作物が採れるし、夜空は澄んでおり、人はやさしく、栗山町は宝の山だと思っています。

「娯楽がない」と言われますが、本当の娯楽というのは賑やかなものを作るのではなく、その日1日が楽しく終われるようなものがあれば良いのではないかと感じていて、「その娯楽の一つにラジオがなったら」と思っています。

どこにもない放送局を創りたい

私の思いは、全国どこにもないスタンスで新しいコミュニティＦＭを創ることです。子どもから大人…町民全員が参加できる番組や放送局を目指していきたいです。そして、10年後の栗山町をイメージしながら、将来に残せるコミュニティＦＭを創りたいです。

マチに放送局ができれば「まちが元気」になり、サイマル放送などで「世界中とつながる」ことになります。

主役は「町民の皆さん」。朝から笑いながら自宅や会社で、町中でたくさんの会話が生まれるような放送局を皆さんと一緒に創っていきたいと思っています。放送局開設まで約一年、皆さんのご理解とご協力をお願いします。

note
つくる、つなげる、とどける

今回の特集の内容は、町公式note「くりやまのおと」でも見ることができます。

コミュニティ放送局開設事業 PR イベント　－ Radio でキャッチボール！ －

入場無料

栗山町の話題を中心に、コミュニティ FM の魅力や面白さを伝える「PR イベント」を行います。皆さんと一緒に楽しみましょう！ぜひ、遊びに来てください !!

【栗山会場】
3 月 10 日㈭・24 日㈭
（昼）11:00 ～ 14:00　（夜）19:00 ～ 21:00
まちの駅「栗夢プラザ」（中央 2 丁目 92）

【角田会場】
3 月 18 日㈮　13:00 ～ 16:00
農村環境改善センター（角田 157-1）

【主な内容】
フリートーク、生演奏、
ミュージックタイム　など

【主催・問い合わせ】
町ブランド推進課（地域おこし協力隊）
☎ 76-7787

見えなくても繋がっている

コミュニティＦＭ

「地域のための放送局です」と話す、室蘭市で「ＦＭびゅー」を開局している沼田勇也さん。現在、栗山町のコミュニティＦＭの開設を支援してくれている沼田さんに思いを聞きました。

室蘭まちづくり放送㈱代表取締役社長
沼田（ぬまた） 勇也（ゆうや）さん（45）

プロフィール

千葉県君津市生まれ。平成 19 年 11 月に室蘭まちづくり放送㈱を創立し、翌年 8 月にコミュニティ FM「FM びゅー」を開局。放送局長も兼務しながら、FM 局を通じて、市民の「日々の暮らし」を応援し、「楽しい」のある生活環境をサポートしている。

聴いてもらえる放送局づくり

室蘭市で、12年務めた会社を辞め、地域住民のみんなでお金を出し合い、コミュニティＦＭを開局しました。

たくさんの方が聴いてくれています。開局当初は、否定的な声や厳しい意見をたくさんいただきましたが、「ラジオを生きがいにしています」とお手紙をいただくこともあり、いろいろな形でお役に立てています。

放送していると、どんな人が聴いているのか見ることはできませんが、見えなくても繋がっていることを日々実感しています。

また、平成24年の西胆振暴風雪や北海道胆振東部地震による大規模停電があった時には、ラジオが正確で便利な情報発信の手段として認識してもらい、住民の皆さんからＦＭびゅーにメールなどでたくさんの情報をいただきました。災害時は、放送局内も大変な状況にありましたが、マチの暖かさに助けられました。

コミュニティＦＭは、地域の皆さんのための放送局です。このマチに住む皆さんが必要な情報は何かを把握し、「聴いていると便利、楽しい」と、一人でも多くの方に聴いてもらえる放送局づくりが大切です。

放送を通じて、運営を支えてくださるスポンサー企業の皆さんへの恩返しにもなり地域の活気にもつながります。

無限の可能性が広がる放送局に

コミュニティＦＭは聴くだけでなく、放送エリアの皆さんが情報発信する側として参加できる道具であることも魅力のひとつです。

栗山では、多くの皆さんと無限の可能性が広がる放送局が生まれようとしています。私もワクワクしながら準備を進め、便利で楽しい放送局ができることを応援しています。